

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600228		
法人名	社会福祉法人 天寿会		
事業所名	グループホーム いたどり(ユニット式)		
所在地	白老郡白老町字竹浦135番地7		
自己評価作成日	平成 28年3月3日	評価結果市町村受理日	平成28年4月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosyoCd=0193600228-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成28年3月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の他、事業所理念をつくり、掲示したり、ネームプレートへ携帯したり、ミーティングや支援を考える時の判断基準にするなど、実践につなげようとしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板や広報配布を利用者様が行えるよう支援すると共に、町内会行事への参加、事業所行事への参加、散歩の際の挨拶など交流を深めている。毎月情報誌を回覧していただき、この縁で地域の方に差し入れをいただくこともある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	情報誌を通じて町内会に回覧したり、見学者や地域からの相談に応じている。また、町内のグループホームや保険者、地域包括支援センターとも協力し、徘徊模擬訓練の実施などイベントの企画・運営に携わっている。地域でサポーター養成講座を開催予定である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方などに参加していただき、実践の報告、事故の発生状況や対策など相談したり、ご意見をいただき、ミーティングなどで共有してサービスに活かせるよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加いただくと共に、月に1度発行の情報誌を送付したり、行事への参加もいただき、実情を報告すると共に、必要に応じて相談するなど、協力いただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上により夜間は施錠しているが、自由な外出と来客、したい時にしたいことができること、生命に危険が迫っていない時には、いかなる時にも制限をうけないこと、当たり前の生活を目指し、取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や内部研修において学ぶ機会をもち、権利擁護指針を策定・掲示し、職員一人一人が確認しあい、虐待の発生予防に努めている。また、管理者より虐待など介護事故の情報提供を行い、ミーティングなどで話し合う機会を持っている。		

グループホーム いたどり(ユニット式)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の実施・参加と共に、外部の研修情報を提供し参加できるようにすると共に、実際に利用している方がおられるため、その都度管理者などから説明・解説を受け、必要に応じ活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	自宅への訪問、施設見学などを行い、十分な説明を行って疑問や不安の軽減・解消に努め、ご理解いただけるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の運営推進会議への参加や、ご家族様の来所時など言葉かけを行い、利用者様、ご家族様の意向や要望など表明しやすい雰囲気づくりに努め、意向や要望に対し、ミーティングで検討し運営に反映できるよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝・夕のミーティングの他、グループウェアの利用や面談など、日常的に意見や提案、相談ができる体制となっており、法人経営委員会などに報告・相談したり、管理者をはじめ法人各事業所の管理者理事長などのメールアドレスを公開し、いつでも意見や提案を行える体制とした。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休日の希望や柔軟な勤務変更、処遇改善手当の支給、自主研修参加のバックアップなど、働きやすい職場環境の整備に努めている。また、H27年度は介護職員一律に大幅な昇給を実施した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実態と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修企画や参加促進、研修参加へのバックアップ(案内の回覧や勤務変更)、ケア方法など現場での相談・検討を行い、知識・技術の向上に努めている。また、初任者には、エルダー・メンター制度をとり入れると共に、経験者にはリーダーとして活躍できるよう研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホームによる連絡会の立ち上げ、協働でイベントの企画・運営を実施したり、情報誌の交換を通じて情報交換を行ったり、実習生の受け入れ、その他法人内他サービスの事業所との合同研修などを通じてサービスに活かせるよう取り組んでいる。		

グループホーム いたどり(ユニット式)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問や見学、体験利用などにより、ご本人の希望や不安をうかがうと共に、入居後はご本人の言葉や表情から気づいた点を記録し、職員間で共有すると共に、不安や困っている時には、安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の訪問や見学、来訪時にお話しながら要望などをうかがい、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用相談にあたり、ご本人、ご家族の予防をうかがうと共に、アセスメントを行い、その時に必要なサービスなど提案や情報提供をしたり、必要に応じて居宅介護支援事業所や他サービス事業所への調整を行うなどしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事やお風呂、食事、趣味活動など共にさせていただきながら、人生の先輩であるという気持ちを持ち、得意なことなどできることを教えていただくなどしている。また、利用者様同士の支え合いも大切に、共に生活するパートナーとして共感しあえる関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や来所時など、生活状況をお伝えし、ご家族の要望・意向や、ご家族の感じるご本人なりをうかがうと共に、ご本人を取り巻くケアチームの一員として参加していただけるよう努め、ご家族が参加し一緒に楽しんでいただける行事を少し増やすことができた。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事への参加や、ご家族様と共に過ごすこと、知人・友人宅への外出支援、面会や関係継続のための手紙や外出時の助言、馴染みの医療機関への受診、行きつけのお店など、関係が続けられるよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様間の関係性にあわせて家事などの作業を分担したり、お互いがお互いを気遣ったり支えたいと思う・行動することを支え、利用者様相互に本人らしさを発揮しつつ、関わりが保てるよう支援に努めている。		

グループホーム いたどり(ユニット式)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後にも訪問したり、行事運営の協力をいただくなどの中で、ご家族様と想いを共有するなどしている。また、地域内でお会いした時にも世間話などを通じて情報交換を行うなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から、今の思いの把握に努めると共に、意向の表明が難しい場合には、具体例を提案したり、表面化しないニーズに対しては、アセスメントやご家族の情報をもとに、ミーティングなどで検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の訪問面接や他機関の情報を基に、ご本人やご家族様から聞き取るなどして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なアセスメントの他、毎日のミーティングを通じて、生活の様子などを基に支援目標を立案し、その効果を報告、日誌に記録するなどして現状の把握と支援に結びつけている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリング・アセスメントの実施、担当介護員を中心に意見やアイデアを集約し、介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や支援とその結果、気づきについて、個別に記録すると共に、朝・夕のミーティングで話し合い、必要に応じて介護計画の見直しができるよう取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や外出、希望にあわせて行事を企画・実施、帰省、受診など、その時々実現に向けてよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の加入、会員としての活動参加、ご近所さんや、馴染みの商店などの人的資源や、馴染みの場所などの環境的資源など生活の中に取り入れ、楽しむことができるよう取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医や、状況に応じてご本人・ご家族への情報提供や相談を行い、ご希望の医療機関を受診できるよう支援を行っている。また、必要に応じて医療機関に情報提供書を提出、同行し、必要な医療が受けられるよう支援を行っている。		

グループホーム いたどり(ユニット式)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師によるバイタル測定や体調確認を受けると共に、些細なことでも報告・相談を行い、必要な医療を受けられるよう支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供書の提出、情報提供を実施し、入院中には必要に応じて関係者との情報交換を行い、定期的に訪問、お見舞いに行くなどし、病棟看護師などとも情報交換を密にし、必要に応じて入院中であっても支援を行っている。病状・精神状況の把握に努め、適切な治療と早期退院により、心身に与えるダメージを軽減できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における事業所の方針を策定し、契約時に説明を行い、方針について共有を図ると共に、ご本人・ご家族様の意向に沿って、訪問看護師や医師などと連携して事業所での看取り支援の実施の他、望む終末期を過ごしていただけるよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習の受講や、対応方法についてマニュアルが確認できる体制にすると共に、ミーティングにおいて、ヒヤリハットなどから危険予測と対応について検討するなど取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練を実施し、訓練にあたっては、全町一斉の津波避難訓練に参加したり、消防署の協力をいただき消火体験を行い、近隣職員の応援体制の確認・訓練など、より実際に即した避難方法を身につけられるよう取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	場面に応じて言葉や大きさ、場所などに注意し、尊厳を保っていただけるよう努めているが、馴れ馴れしくなってしまうことがあり、改善していきたい。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の言動や様子から思いや考えをうかがうと共に、考えがまとまらない時には、状況にあわせて選択肢を提示し、ご本人に選択・決定していただけるよう支援に努めているが、時に職員本位になることもあるので改善していきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々のお思いや考えで参加が可能となったり、ご本人のペースで生活が送れるよう努めている。一方で、入浴の時間などできないこともあるため、できる方法を検討し実施に向け努めていきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝お好みの衣服を選択していただき、外出などの際にはお化粧をして、おしゃれを楽しんでいただけるよう支援に努めている。		

グループホーム いたどり(ユニット式)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や調理、片付けなど得意を活かしながら行っている。また、献立の作成時にご希望のものを取り入れたり、旬のものを取り入れるなどし、行事でもご希望のものを召し上がっていただけるよう支援に努めている。心地よい音楽など環境にも配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量を観察・記録し、ご本人の希望や習慣(温度や種類、好のものなど)を取り入れ、状況に応じてご本人のタイミングにあわせて提供したり自由に摂れるよう配置し、栄養、水分摂取が確保できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ケアが必要な方には介助を、ご自身で行える方は言葉かけや仕上げの介助など支援に努めているが、不十分なことがある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録し、排泄間隔の把握に努め、水分摂取の状況などから推測してできる限りトイレでの排泄を基本とし、紙オムツ類の使用の減少に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含むものや、乳製品、オリゴ糖などを使用し、食事やおやつを工夫を行うと共に、水分補給(できるだけお好みの物)、適度な運動機会、入浴時の腹部マッサージなどに取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できるだけご本人の希望で入浴していただけるよう、常にお風呂の準備を行っている。また、拒否が強い方は、行為など関連したり言葉かけにより、動機をもって(入りたいと思って)入浴していただけるよう努めているが、入浴頻度が少ない時は、ご本人のタイミングより、入浴を優先してしまうことがある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体力などから、精神面にも配慮し、共有スペースや自室などで休息をとっていただいている。また、日中の活動を適度に保ち、夜間ぐっすり眠っていただけるよう支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報の把握に努めると共に、薬情報をファイルに綴り、不足を感じた場合は確認するようにしている。薬によって受ける影響を最小限にするため、症状の変化の把握に努め、主治医に適切に相談できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や花の世話、畑、晩酌、歌、買い物など、ご本人の生活歴や、その時々思いを尊重して、趣味や余暇活動などへの参加により楽しみのある生活の支援に努めている。		

グループホーム いたどり(ユニット式)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その時々々の希望に沿って、散歩や近所のコンビニ・車で衣料品店などへの買い物、散歩や地域行事への参加、その他普段の会話から聴かれる希望や生活歴などを行事に反映し、馴染みの場所や、生まれ故郷などへの外出もできるよう努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて所持・保管管理できるようにし、事業所で管理する場合であっても、買い物や外食などの際にはご自身で支払ができるようにするなど支援に努めているが、混乱を予測して職員が対応してしまうことがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用や取次、手紙の作成など支援を行っているが、手紙についてはできていないこともあるため、改善していきたい。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあわせて花や飾りつけを行い、観葉植物やぬいぐるみなど暖かい雰囲気となるよう心掛けている。また、換気や暖房調整、送風、加湿、遮光などを行うと共に、不快な臭いに対しては消臭をして、居心地がよく過ごせるように取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの他、小リビングがあり、また窓辺にソファを配置するなど、視線を遮りつつも誰かが存在する安心感ある居場所や、一人になれる居場所づくりに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけご本人が使用されておられた馴染みの家具や小物、食器を持参していただいたり、自室にご自身の洗濯物を干すなどプライバシーの保護や安心、居心地の良く過ごしていただけるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関にはまたぎが容易な框を配置し、施設内はバリアフリーにして安全を確保し、調理器具や食器は保管場所を変えず、混乱要因となると考えられるものには掲示するなど、わかりやすさと、できるようにに向けた支援に努めている。		